

## 認知症サポーター養成講座のご案内について

認知症高齢者の数は2012年の時点で全国に約462万人と推計されており、今から10年後の2025年には700万人を超えると推計しています。65歳以上の高齢者のうち、5人に1人が認知症に罹患することになります。

このように認知症は非常に身近な病気であり、早期発見と周囲の見守りが重要です。

可児市の高齢化率は平成26年10月24.0%（全国25.9%）、平成27年4月24.6%と徐々に増加しております。

10年後の2025年団塊の世代の方々がすべて75歳以上となると、全国的に高齢化率は30%を超え、65歳以上の5人に1人が認知症の症状を有していると予想されています。

こうした状況を踏まえて、国は平成29年度末までに認知症サポーターを人口の6.5%という目標値を設定しました。可児市においては、6500人となります。

**可児市では認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指して、認知症の方を暖かく見守り応援者になっていただく認知症サポーターを養成しています。**

日常生活で高齢者の方に接する機会の多い事業者の皆さんが、認知症に対する知識と理解を深めて頂くことは、早期発見や事故や事件の予防に繋がり、社会的な貢献にも繋がります。

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けることができる社会の実現のためご協力を賜りますようお願いを申し上げます。



## 認知症の人の「杖」になる<sup>つえ</sup>

- ・「認知症の人は何も分からない。」というのは間違いです。忘れてしまうことを一番初めに気づき、辛い思いをしているのは本人です。
- ・周囲の方が、認知症の方が不得意になってしまった部分を理解し、その方ができない部分を補う「杖」となれば、自分でできることも増え、穏やかに暮らしていくことができます。
- ・偏見や無理解という心のバリアをなくし、一人でも多くの「人間杖」を増やしていくことが重要です。

## 認知症サポーターとは

- ・何か特別なことをする人ではありません。
- ・認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の方や家族を温かく見守る支援者として自分のできる範囲で活動します。
- ・自分自身の問題と認識し、友人や家族に学んだ知識を伝えること、認知症の方やその家族の気持ちを理解しようと努めることもサポーターの活動です。
- ・可児市では3,843人(平成28年3月22日現在)の方が認知症サポーターになっています。

## 認知症サポーターになるには

認知症サポーター養成講座を受講した方が「認知症サポーター」となり、「認知症の人を支援します」という意思を示す目印の「オレンジリング」が渡されます。  
企業の場合にはステッカーもお渡しします。

